

社会的知性を備えた卓越した若手研究者育成 (実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：山形大学（総括責任者：結城 章夫）

プロジェクトの概要

理工学研究科をテニュアトラック推進特区に選定し、国際公募により教員を公募、任期制を導入する。本事業をテニュアトラック制度導入のパイロットプログラムと位置づけ、事業終了後全学展開を目指す。プログラム管理のためプログラムオフィサーを、教育・研究・マネジメント能力向上のため、シニアメンター、SQトレーニングコーチを配置し、国際的な競争環境下で新領域の開拓ができ、チェンジマインドを持った若手リーダーを育成する。

(1) 評価結果

総合評価	国際公募・選考・業績評価	人事養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人事養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	今後の進め方における取組
A	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プロジェクトは、理工学研究科を「テニュアトラック推進特区」に選定し、TTパイロットプログラムと位置づけ、将来を見据え新領域を開拓するスピリットを持ち、卓越した社会的知性（SQ）能力を駆使して、革新的意識を持った若手リーダーの育成を目指しており、その成果が期待される。教育・研究・マネジメント能力向上に特に重点を置き、企業での研究開発マネジメント経験者をプログラムオフィサーとして採用し、さらにシニアメンター、SQトレーニングコーチを配置して、育成環境の強化を図っており、優秀で活力のあるテニュアトラック若手研究者（以下、「TT 若手」という）の採用に成功し、自立性の高い育成に成功していることは評価できる。学内の体制の整備を進め、全学展開も着実に進められる体制となっており、総括責任者のリーダーシップが随所に発揮されて、今後の特徴ある取組の展開を期待する。また、社会的能力の涵養としてSQ重視はユニークな手法であるが、1つの手法にとらわれずに教育の自立性や適性にも配慮して進められることを期待する。

- **国際公募・選考・業績評価**：国際公募に際して、研究分野、採用予定研究者などの特性を考慮した取組がなされ、目標にほぼ近い女性研究者、外国籍研究者を採用している。また、評価基準が明確であり、評価結果をTT若手と相互確認を取るなど客観性が保たれており、評価できる。
- **制度設計に基づく実施内容・実績**：目標や方針が明確な研究リーダー養成システムを作っている。ライフイベントやSafety Netも適切に整備されている。理工学研究科においてTT助教全員に博士前期課程における指導を認定しており、評価できる。
- **制度設計に対するマネジメント**：外部委員を含むテニュアトラック推進会議により事業の点検評価が行われPDCAサイクルが機能しており評価できる。また、実施期間終了後に向けて、多様な学部への導入を検討し、幾つかの特徴あるシステムを模索していることも評価できる。YU-COE推進本部においてテニュアトラック制（以下、「TT制」という）を統括し、学長のリーダーシップが十分に発揮され今後の展開が期待できる。
- **今後の進め方における取組**：計画を前倒ししてH23年度より理学部、農学部にてTT制を導入し、全学展開の道筋をつけており、継続性、発展性について評価できる。実施期間終了後のテニュアトラック制の計画では、人文系を含む全学部へそれぞれの特徴を踏まえた展開の検討を期待する。